

平成21・22年度 埼玉県教育委員会委嘱・埼玉県特別支援教育研究会委嘱

# 特別支援教育の充実と その視点に立つ学校教育の推進

- 校内推進体制の構築と特別支援教育の視点に立った学習指導の在り方 -

平成22年10月26日(火)

深谷市立深谷中学校



- 研究の視点
- ・原因は何か？
  - ・何に取り組めば？
  - ・何から始めたら？
  - ・どう取り組めば？
  - ・何が必要なのか？  
(知識、技法 etc)
  - ・どんな組織が？
  - ・研修計画は？
  - ・どんな経営が？
  - ・
  - ・

深谷市教育委員会教育長

小 柳 光 春

深谷市立深谷中学校におかれましては、平成 21 年・22 年度の 2 年間にわたり、埼玉県教育委員会並びに埼玉県特別支援教育研究会の研究委嘱を受け、「特別支援教育の充実とその視点に立つ学校教育の推進」を研究主題に掲げ研究を推進され、ここにその成果を発表されますことに、心から御礼申し上げます。

平成 19 年度、学校教育法が改正され、特別支援教育元年から 4 年目を迎えています。深谷市では、「新しい時代にふさわしい教育の創造」を目指し、すべての子ども達に「確かな育ちを保障する」ことを踏まえ、特別支援教育の視点から深谷市における新たな教育の創造への取組を行ってまいりました。

このような時期、深谷中学校におかれましては、平成 21 年度から学校教育目標「志高く」(1)自ら学び続ける生徒(2)思いやりの心を培う生徒(3)心身を鍛えやり抜く生徒」の実現のため研究を進めていただきました。

本研究は、常に生徒を主体に考え、相手の立場を尊重し、情報の共有化を図り、教職員同士の連携と支え合いの中で研究が進められたことは、大変意義深いことと考えています。

研究の中では、教職員の意識転換を図り、校内支援体制の充実や学習環境の整備、外部機関との連携、授業改善への取組方策などを明らかにし、特別支援教育の充実に努め、特別支援教育の視点に立つ学校教育を推進していただきました。

この深谷中学校の取組が、深谷市は勿論、市外の学校に広まり、児童・生徒の教育的ニーズに応じた指導の充実につながるものと確信いたしております。

各学校におかれましては、深谷中学校における実践と研究の成果を参考にされ、自校の教育活動に生かしていただきますことを期待申し上げます。

結びに、深谷中学校の研究に際し御指導を賜りました県教育委員会特別支援教育課・北部教育事務所をはじめとする諸先生方に対しまして、厚くお礼申し上げますとともに、深谷中学校の先生方の御努力と保護者、地域の皆様の御支援に深く感謝申し上げますあいさつといたします。

深谷市立深谷中学校長

久木 健志

学校教育法等が改正され、平成19年にすべての学校が特別支援教育に取り組むようになってから4年目を迎えました。

でも、なぜ法律を改正してまで特別支援教育に取り組まなければならないのでしょうか。

## ■ 看過できない現状

子どもたちを取り巻く環境は十年前と比較すると激変し、急速に悪化しています。

離婚の増加による母子家庭・父子家庭の急増、経済の停滞による生活保護家庭数の激増、虐待や暴力を受けながら育つ子どもの増加など、子どもたちの生育環境の悪化は目を覆いたくなるような状況です。

また、このような子どもたちを取り巻く環境の急激な変化と劣化が、子どもたちの脳（心）にさまざまな影響を及ぼし、発達障害や二次障害に苦しんでいる子どもが増加している現状は、もはや看過できないレベルにまで達しています。

そして、LD、ADHD、アスペルガー、高機能自閉症などの発達障害を持つ子どもが通常の学級に複数在籍しており、通常の学校における発達課題を抱えた子どもたちへの早期で適切な指導と、継続的な支援を実践していかなければならないという、「これからの教育が克服しなければならない喫緊の課題」が、すべての学校において特別支援教育に取り組むよう法改正がなされた背景にあるのではないのでしょうか。

本校では、埼玉県教育委員会および埼玉県特別支援教育研究会より研究委嘱を受け、平成21・22年度の二カ年にわたり「特別支援教育の充実とその視点に立つ学校教育の推進」を研究主題として研究を続けてきました。そして、研究を通して、特別支援教育に取り組むことは「教育におけるパラダイムシフトを起こすほどの大きな価値を秘めているのではないか」と考え始めています。

本研究紀要では、本校の研究に対する基本的な考え方や具体的な実践例を報告しますが、研究は緒に就いたばかりであり、研究に取り組めば取り組むほど新たな課題が析出し、多くの方々に納得していただける研究成果を上げ得る段階には到底至っていません。

しかし、研究紀要をまとめるに当たって、教職員と共に苦闘し取り組んできた本校の研究や実践が“他の多くの学校が特別支援教育に取り組もうとするときに遭遇するであろう課題に対して、何らかの解決の手がかりを提供できる価値を含んでいるのかもしれない”との思いを支えに、これまでの取組を公表することといたしました。

ご指導のほど、よろしく願いいたします。

平成22年10月

### ■ 研究をどうまとめるのか？

私たち通常の学校に勤務してきた多くの教員にとって、特別支援教育への取組は「未知の教育・未知の領域」への苛烈な挑戦であり、想像以上に困難を伴う教育実践ではないかと考えています。その理由は、通常の学校・学級における特別支援教育の実践は、数年で成果が得られるような小さく軽い課題ではなく、解決のためには価値観の転換を含めた長い期間と大規模で組織的な取組が必要であり、喫緊ではありながら容易には解決できない重く深刻な課題だからです。

また、義務教育最終段階である通常の中学校における特別支援教育に関する研究や実践事例は極めて少なく、指導者の多くが特別支援学校等での指導を専門とする方々であり、思春期の生徒たちを対象とした通常の中学校・学級での指導経験が少ないという状況があり、本校の研究は暗中模索の状態です。

しかし、研究や実践を振り返ると、「解決をあきらめ放棄する」ということとは全く違う感覚を私たち教員にもたらし始めていることに気がきます。本校では、研究や実践を通して、次々と発生する問題行動の背景を探り、苦闘しながらも改善のための視点や対応方法を模索してきました。そして、指導方法を工夫し変えることにより「発達課題を抱えた子どもたちの状態が少しずつ改善されていく」という僅かな変化が、研究を支えてくれています。

本校の特別支援教育への取組は始まったばかりであり、指導方法やその有効性を述べ、有るべき姿や実践の方向を確信を持って論じ得るような状況ではありません。しかし、発達障害に苦しんでいる生徒、生育環境の劣悪さに戸惑いながら何とかしたいと苦闘している生徒、両親の離婚の影響を受けながら幸せを探している生徒など、必死に生きようとしている生徒に本気でかかわっている先生方の姿を前にして、実践の背後にある価値を見だし、実践の意図を明らかにし、記録として残すことが重要ではないかと考えました。

本研究紀要をまとめるに当たり前提としたことは、

- ・「子どもの困り感」を明らかにしようとした実践過程を残す
- ・発達障害に関する知識を獲得する過程を残す
- ・原因を推測し対応策を練ることが可能な組織への模索過程を残す
- ・成果も課題（失敗）も明らかにし、共有できるようにする
- ・チーム、組織で対応するための考え方や方法を残す

ということです。

厳しい現状を前に、なぜそのような問題行動が起こるのか、どう対応したらよいのか、そのために必要な知識や知恵は何か、担任や担当を孤立させないためにどう教職員のチーム力を高めるのか、教職員がさらされるストレスにどう対応したらよいのか、互いにエンパワーメントしながらこれからの学校教育をどう創ろうとするのか、そのための学校経営はどうあるべきなのかなど、次々と迫ってくる課題に一つ一つ正面から対峙し、解決に向け乗り越えようとしてきた先生方の声を、ありのままに残すことを目的として本研究紀要をまとめました。

**深谷中学校スタンダード**

Vol.1



希望・挑戦



未来

深谷中学校で学ぶみなさんは、無限の可能性を秘めています。そして、みなさんは、もっともっと大きく成長することができます。

「深谷中学校スタンダード」は、先生方が、皆さんが大きく成長し、可能性を収束のものにしてほしいと願い、上を志して日々実践しようとしている内容と、その理由をまとめたものです。

先生方の願いを叶えたい、大きく成長してほしいと願っています。

深谷市立深谷中学校

〒380-0881 埼玉県深谷市山手4-3-2  
TEL 048-671-4034 FAX 048-671-0775